

第20回 茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

◇ 開催概要

日時:令和5年9月2日 16:00~18:00

場所:藤沢土木事務所汐見台庁舎 1階会議室

出席者:委員17名、事務局14名、傍聴者0名

議事概要

1. 開会

規約改定について報告した。(資料1)

2. 第19回協議会の概要(資料2)

第19回協議会の内容を確認した。

3. 茅ヶ崎海岸(中海岸地区と菱沼地区)のUAV画像の判読(資料3)

・ドローン映像より写真を切り出し、それらの画像から海浜地形特性の判読を行い、その結果について説明があった。

4. 茅ヶ崎海岸の現地調査(資料4)

・中海岸地区と菱沼海岸地区では、汀線に沿って盛り土を行い、波の作用により砂を陸から汀線を押し出す方式が採用されているが、菱沼海岸地区では中海岸地区と同様の手法を採ることが難しいことから、新たな方式(サンドエンジン養浜)を進めるために、現地調査を行い、その結果について説明があった。

5. 令和5年度の菱沼地区での養浜方法の検討(資料5)

・菱沼海岸地区で、サンドエンジン養浜(茅ヶ崎ヘッドランドの背後等で集中的な養浜を行い、ここから沿岸漂砂により下手(東側)海岸へと砂を供給する方法)を行う候補地を4箇所選定し、比較検討を行った。

ケース1: 茅ヶ崎ヘッドランドの東側隣接部でのサンドエンジン養浜(T.P.+3m)

ケース2: 茅ヶ崎ヘッドランド東側付近~4号水路間での従来型盛り土養浜(T.P.+6.0m)

ケース3: 茅ヶ崎ヘッドランドと4号水路の中間付近100m区間での
サンドエンジン養浜(T.P.+3.0m)

ケース4: 4号水路西側直近の100m区間でのサンドエンジン養浜(T.P.+3.0m)

・利用できる海浜面積が最も増加して高い浜崖が形成されないケース3が最適であるという結論になった。

6. 令和5年度養浜工事について(資料6)

・柳島地区では、今年の5月から6月に養浜を5,000m³実施しており、使用した土砂は、令和4

年度に道志ダムからストックヤードに搬入した土砂としている。

・中海岸地区では、養浜量を15,000 m^3 、実施時期としては、今年度11月頃から3月頃を予定しており、養浜土砂としては養浜盛土を掘削して前に出すものと、令和4年度に相模ダムから柳島ストックヤードに搬入した土砂を使用し、養浜する予定。

・菱沼海岸地区では、養浜量を20,000 m^3 予定。内訳は、菱沼海岸に18,400 m^3 、白浜町に1,600 m^3 を予定。実施時期としては、今年度11月頃から3月頃を予定し、養浜土砂は、茅ヶ崎漁港の西側に堆積している飛砂を15,000 m^3 、藤沢市の辻堂東海岸の飛砂5,000 m^3 を使用し、養浜する予定。

7. 閉会

☆ 委員意見概要

主な委員意見を整理した。（●意見、⇒意見に対する回答など）

- 中海岸の養浜天端を下げるのはわかるが、海の中が浅くなって、今の時点で船を出すのに苦労している。だから、下げてきてある程度の深さが維持できるぐらいの感じができないかなと思うので、そこところはどうか。【重田委員】
 - ⇒ 茅ヶ崎中海岸の養浜天端を下げるのは中央より東側。西半分はもう大体できているので、法先程度は入れるけれども、積極的な養浜は今のところ考えていない。【宇多副会長】
- 盛土を当初高さ8メートルでやってもらって、そのときの状況で一番怖かったのは、大きな石とかがその頃結構多くて、鉄のさびたようなものもありました。その頃、そういうのが多かったので、下手をすると、前で日光浴されている人が寝転がったりしているところに落ちこちてくるということがあったので、すごく心配してそれを訴えたことがあるのですが、今度盛土の高さも低くなり、前に押し出されるような方法を取られるということだったので、そういう上からの落下の危険性が減っていくと思うので、すごくいい方向に進んでいくなと思いました。【伏見委員】
 - ⇒ 大きな石等が混入する可能性はゼロじゃない。出た場合については、工事の中で安全のために撤去するという話になっている。以前に比べたら格段によくなっている。【宇多副会長】
- 茅ヶ崎中海岸は、大分よくなったと認識しております。一方、中海岸からボードウォークかがあって、看板はあるのですが、完全に砂に埋もれて通ることができない。十数年前にはかなり歩けたのですが、現在は完全に砂に埋もれている。解決策の決定打があるかというとなさそうですが、何とかならないかなという思いはあります。ただ、浜がきれいになったということは非常に感謝しておりますので、サイクリングロードの砂の解決策、決定打がないのか、私は素人なのでよく分かりませんが、何かいい方法があればできればやっていただきたいなと思います。【飯島委員】
 - ⇒ 難しいのは、海岸管理者と道路管理者が、同じ事務所でも予算の系列が違うので、たまっているのだから取ってあちに入れればいいとは思うかもしれないけれども、行政的には仕分けが要るので、仕組みもうまく考えながら、自転車道の管理をしているのも同じ藤沢土木事務所、海岸を管理しているのも同じ事務所、部門はちょっと違うけれども、大局的に見れば、おっしゃるような課題があって、そこはうまくやるようにぜひお願いしたい。【宇多副会長】
 - ⇒ 飛砂はなくせないが、自転車道への影響を少なくするように、竹ず柵の二重化というものを随時図っているところで、なるべく自転車道のほうに影響がないように整備をし始めているという状況。【事務局】
- 菱沼海岸の今年の養浜に関してですが、これは先ほど説明があったケース3という格好でやると思いますけれども、実際にこれよりも東側、先ほど話がありました4号水路の手前が2019年の19号のときに3時間の荒波で削られているので、そっちを少し強化してもらえるとありがたいなという思いがあるのと同時に、昨年盛土をしてもらったTバー（ヘッドランド）の手前の東側の盛土、台形にしたものに

関しては、それを少し前に出していくということはないのでしょうか。これは、私がというより、ライフセーバーのほうの問題で、先ほど波打ち際で子供が遊んでいるという話があったのですが、なかなか見にくいという話を聞いていました。【岡崎委員】

- それに関しては県の方たちと話をし、15メートルほどの幅の道で出られるようにしており、一般の人たちに理解を求めている。

昔のヘッドランドは真っ平でした。今は凸凹です。バギーでも登れない坂があります。だから、救助機材を出すのはとても苦労しています。あそこを利用しているアウトリガーの人たちとかカヌーの人たちとか、物を持って波打ち際まで行かなければいけない人たちは結構苦労していますが、慣れていけば何とかみんなでやりくりできる。ただ、その道筋は相談して、県の方たちと、ここにこういうものがあればみんなが納得するのでやってくれませんかと言ったときにはちゃんとやっている。大波が来る予定で盛土をしたりして、要は被害を少なくするためにあれをやったという経緯があるので、それも一般の方たちには説明した上でみんな理解はしてもらっている。実際に大波が来ないので、その証ができないというだけです。それをみんなに伝えて理解を求めています。【小川委員】

⇒ その関係性を大事にさせていただき、防護上にトラブルが出ない範囲では、できるだけうまくスムーズにやって、日常の利用ができるが良い。また、2019年10月の台風19号のようなものがいつ来るかと言われても、絶対来ないとは言えない。だから、そのために、いろいろ策を凝らしたものがこの方法である。ただ、その間にも海岸利用者は毎日来ているので、できるだけトラブルがないように、よく土木事務所と相談していただきたいということではないか。【宇多副会長】

- ビーチフェスティバルを5月に行った際に、車椅子用のマットをサイクリングロードから砂浜まで敷いた。非常に使い勝手が良かったので、シーズン中そういうものを設置していただくこともよいのではないかとと思う。【伏見委員】

- サイクリングロード側の砂の撤去をしてもらうことが多いのですが、海側をもう少し取っていただくと長もちします。多分海側は予算の関係もあってなかなか手がかからないと思いますけれども、海側も少しだけてもらえると非常に長もちするので、毎回毎回というわけにはいかないのかもしれませんが、2回に1回ぐらいやっていただくと、現場は助かる。【岡崎委員】

⇒ 予算の制約もあり、毎回そういうことができるかという、なかなか難しいところである。そういった中で、特に中海岸のところに関しては、毎年工事が入っているので、ちょっと工夫していくことはできるのかなと思う。

この砂をどこに再利用するかということや中海岸で養浜する土砂の中にもう一回入れ直して、汀線際のほうに入れていくというやり方もあると思うので、その辺りを今後工事の発注に当たって検討していきたいと思う。【事務局】

- 茅ヶ崎中海岸とか菱沼海岸というのはたくさんのサーファーは、養浜して広がってサーフィンがやりやすくなったとか言っているのかを教えてください。【宇多副会長】

⇒ 前からいる人は分かっているけれども、最近はマンションがいっぱいできて、急にサーファーの人口

が増えて、何も様子が分かっていない人、ルールも分かっていないし、そういう方々が増えてしまって、実際に海の中が大変な状態になっている。

中海岸の砂の盛り方も、盛土があってそれが削れてちゃんと浜になるというのは、分かっている人と、「ああ、浜崖だ。困ったものだね」という人。残念ながらちゃんと浸透はしていないと思う。そこはうまく伝える。これだけの努力をしてこれだけいいものができたということ、本当にどうにか知ってもらいたいと思う。【伏見委員】

- 養浜は、パウダーサンドになったものだけで行うことはできないのでしたよね。飛散してくる砂は、みなパウダーサンドで漁港もそうだし、みなパウダーサンドで、これが全て養浜に使用できることはないという理解でよいでしょうか。【小川委員】
 - ⇒ 養浜材は粒径の大きいものも一緒に行っている。ただ、波と風の作用を受けると、分離が起こり、パウダーサンドばかり溜まる。それは無駄なものではなく、予算をかけて養浜材として持ってきた一部である。パウダーサンドで養浜しても余計に溜まってしまうのは承知しており、それを利用せざるを得ないというのが実情である。【宇多副会長】
- 6号水路の端のところから海水浴場に入るところまで、毎日、男性2名がトンボで砂掻きを行っている。あそこは自転車も通りやすいし、すごく良い。【安田委員】

以上